

**SHIEN**  
No.7

2014 5/15

# 支縁



<http://www.kisokobe.com>

2009年6月27日

読者からの  
お問い合わせ

「分け隔て」を  
乗り越えて

岩村義雄

神戸の人たちは、19年前の阪神淡路大震災で『東北人に助けてもらつた!』とボランティアに来てくれます。毎月、定期のこの活動により、今後(もしも)20年、30年先に日本はどうかで何かあつても、今度は東北人が

切にするように、神戸国際支縁機構は引き続き汗を流します。

## こうしえん 「耕」支縁

### 神戸国際支縁機構(KISO)季刊誌

【発行人】 岩村義雄 (携帯 070-5045-7127)  
【事務局】 〒655-0049 神戸市垂水区狩口台5-1-101  
Tel(078)782-9697 Fax(078)784-2939  
E-mail:kiso@mbe.nifty.com  
【石巻支所】 阿部捷一  
〒986-2121 宮城県石巻市渡波町3-5-37  
Tel(0225)24-3107  
E-mail:cp.abe@royal.ocn.ne.jp  
年4回 2月、5月、8月、11月  
購読料 一部320円+送料80円(年ぎめ 1,600円)

### 卷頭

宿舎 修空館館長

小野寺脩

神戸の人たちは、19年前の阪神淡路大震災で『東北人に助けてもらつた!』とボランティアに来てくれます。毎月、定期のこの活動により、今後(もしも)20年、30年先に日本はどうかで何かあつても、今度は東北人が

山本智也

「耕す」(英語の culture)はドイツ語 Kultur(テルン語 cultura)に由来。語源の「colere」は「住む、耕す、世話ををする、育てる、崇拜・礼拝する」の意があります。「care(世話をする)」の語源にもなっています。

「農業(英語 agriculture)」の「agri(畑、野)」と「culture (cultivation 耕作)」からできた単語であり、「畑の耕作」の意です。哲学者キケロ(紀元前106~紀元前43)は「魂の耕作が哲学である」と述べました。「耕す」とは土・文化・哲学・宗教に働きかけることです。労働として土に働きかける耕作、お互いに支え合つてつながりの縁を大切にすることです。神戸国際支縁機構は引き続き汗を流します。

力を發揮します。北から南まで、同一民族の日本は、知らない人でも助け合うことができると誇りに思うことでしょう。日本地図を人体に置き換えると東北は心臓部、大事なところの回復で全国の人の生きる力に繋がります。ボランティアの尊い姿に心より感謝いたします。

炊き出し、就労について、村田充八理事からも、「共農支縁」など種々のネーミングが出され、話し合いました。最終的に、水垣涉理事が発題された「耕支縁」を理事会で採択しました。(2014年4月26日)

毎週、機構の東北ボランティア参加者の有志は、神戸市東遊園地「市役所隣」の炊き出しに繰り出します。

食材は、フードバンク関西(浅葉めぐみ代表)、釜ヶ崎の川浪剛さん、玉龍寺(五百井正浩住職)から寛大に提供されています。調理については神戸ファーデルフイヤ教会(大嶋善直牧師)の協力を得ています。玉の肌石鹼株式会社が寄贈してくれました。ハイエースも食材を取りに行ったり、メンバーの送迎に貢献しています。被災地である宮城県、福島県、岩手県からのご協力もあります。阪神・淡路大震災により家族、仕事家を失つた人たちのために、お互いにつながつている「縁」ができています。

リーダーの楠元留美子さんが企画、管理、報告をしていました。第36次東北ボランティアの参加者たちからの積極的な願いが実現に至りました。機構の本田哲郎理事からも励ましていただいています。

「路上で生活をしている人」(英語 Bag people)「身の回りの物を紙袋に入れて持ち歩く様子から」)が日雇い労働者として、就労できるようにお手伝いさせていただきます。ホームレスという言葉を用いません。なぜなら、英語でも Homeless と言えば、キャンプなど野外生活を楽しむ人たちの場合にも用いるからです。したがって、機構では、「路上で

生活をしている人」や「野宿者」と呼ぶようにしています。  
就労として、機構は自分たちが契約している神戸市西区の田畠で共に土を耕し、作物を栽培し、収穫したものを食べていく自産自消「自分で作って自分で食べる消費する」を目指します。衣食住の住居以外を、自分たちでまかねます。森岡忠義氏、岸本豊氏(第11、19次)の寛大なご尽力により、野菜づくりとおいしい安全な食べ物をいたぐることができます。

もし不足する場合、たとえば食材などは他のNPOや、団体と協力し、補つていくようにします。

仕事に就くことで、勤労の喜びを見出します。

無農薬、有機による栽培は従事する人たちの尊厳を保ちます。機械をできるだけ用いずに、田植え、雑草刈り、稲刈りなどの協同作業をします。

だれしあが、一次(生産)+二次(加工)+三次(販売)=六次により、生活、仕事、家庭が支えられるようを目指します。

P.Oや、団体と協力し、補つていくようにします。

仕事に就くことで、勤労の喜びを見出します。

無農薬、有機による栽培は従事する人たちの尊厳を保ちます。機械をできるだけ用いずに、田植え、雑草刈り、稲刈りなどの協同作業をします。

だれしあが、一次(生産)+二次(加工)+三次(販売)=六次により、生活、仕事、家庭が支えられるようを目指します。

仕事に就くことで、勤労の喜びを見出します。

## 林業ボランティア(その一)

本田 陽太郎(第16、23、36次)

### ● 脱臭炭の製品作り ●

東日本大震災の復興として石巻の森林組合 鈴木健一(組合長)は伐採した木で子ども用椅子などの木工品などを女川町に寄贈してきた。日本は国土のうち3分の2が森林面積である。長年手をつけていた里山は資源の宝庫である。電気やガスの普及で炭焼きは見かけなくなりつつある。しかし、ストーブやボイラーで燃やす炭、薪は大いに役立つ。2012年3月、自然エネルギーのため岩村代表より班長として指名され、石巻森林組合へ行くこととなつた。同じ班には研究者・社会人、学生たちで構成されている。機構は養蚕や竹伐採、間伐伐採はしてき

たが、「炭焼き」ははじめてであった。

石巻市真野字七の坪にあるウッドドライサイクルセンターで、所長の大内伸一氏の指示に従い、ドラム缶に入っている粉々の炭を不織布の袋へ詰めた。それをビニールの袋に入れて脱臭炭として使える製品を作つた。

### ● 炭焼き ●

2日目は、森林組合山下俊一氏の案内で石巻市沢田志(し)にある炭焼き小屋に向かつた。窯は国道398号線から脇道に入り、徒歩で10分にある。周囲を山に囲まれ、自然の中にいることが気持ちいいのだが、杉に囲まれているため花粉症の仲間は辛そうだった。

窯の管理者の阿部初吉さん(79歳)と木村貞一さん(77歳)と挨拶もほどほどに、お二人のご指導のもと、1週間ほど前に火をつけ、出来上がった炭を窯から地道に1本1本取り出し、隣の小屋に立てて並べていく。窯の入り口は大人が四つん這いになつてやつと通り、窯の中は立ち上がるほど大きい。窯の中には立つての体か膝を立てるの体制となる。中は炭の粉が立ち込めてカメラで中を撮影してもフラッシュの光がほとんど差し込みず壁まで撮影できないほど、もうもうとした状態だった。持参し



奥の三角屋根が窯。窯から出した前後は左の小屋に保管、中央手前は乾燥させた木材。この木材をほど窯の中にすべて入れた。

た不織布のマスクでは2重にしてほんと役に立たず、咳き込むこともしばしばあった。窯の外で光黒になつていて、顔は炭で真っ黒で、爪の隙間も炭で真っ黒になつていて、みんな笑い合つていた。慣れない体勢で腰も痛く、思った以上に重労働だ

と思ったが、阿部さんも木村さんも顔色ひとつ変えずに作業させていた。その上、炭の粉が体に良くて病気知らずだと笑いながら言う顔は印象的であった。出し終わつたら、今度は次の炭を作るための木材(長さ約1m、太さが直径10~15cm程度)に切断されたものを窯の中へ入れて、1本1本立てて並べていく。木材の上部から窯の天井までの間には短い木材を載せて隙間を埋めていった。窯の中をすべて木材で埋め尽くし、窯の入り口に管を設置し空気穴を設けて上から土で盛り、火を付けてふたを閉めた。火を付けた後は外からすることはあまりないが、まったく手放して放置できるわけでもないらしい。窯の中で木材が燃え尽きてしまうのではないかと考えてしまふが、新鮮な空気が入つていきにいく構造の窯なので、自然消火して、イメージとしては蒸し焼き状態のよう熱が下がつてから窯を出しうるようだ。

火を付けてから炭が出来上がるまでは数日かかるが、具体的にどれくらいかかるのかは、窯の湿気や木材の乾燥具合により左右されるため、一概には言えない。また、夏と冬とでは窯の湿気が異なるため、炭焼きをせずに休止したり、木材の乾燥具合を調節したりすることもある。使う木材は、津波被害のあった住居などを高台に移転するために伐採したものも含まれていて、主にナラの木やクスギの木だそうだ。この炭焼き場には2mの長さに切ったものが運ばれて、炭焼き場でさらに1m長に切斷し乾燥させるそ�である。

### ● 利用している木材と活用方法 ●

炭や薪として加工している木材は、津波被害のあった住居などを高台に移転するために伐採したものも含まれていて、主にナラの木やクスギの木だそうだ。この炭焼き場には2mの長さに切ったものが運ばれて、炭焼き場でさらに1m長に



窯の内部を取り口から撮影。木材を並べている。頭の上はほとんど天井につくぐらいである。



左から 下司聖作さん、本田陽太郎班長

## 連載「むかし、むかし」(その一)

(石巻歴史探訪) 阿部 捷一

坂上田村麻呂伝説で名高い牧山から、東方に伸び渡波方面に連なる山々があります。北から大崩山、垂水山、立石山と続きます。

むかし、秋の刈り入れの季節月夜の晩になると大崩山の方から牝鹿を呼ぶ牝鹿の声が聞こえています。季節の夜になるとあまりに熱心に呼び交わすので、「鹿が鳴くので仕事をやめよう」と里人は、家路についていました。ところがある日、狩自慢の若い男が一頭の牝鹿を狩り、自慢していました。しかし、その夜からは、牡鹿が立石山に向かって鳴き続けて息絶えました。里人も大いに悲し

み、牝鹿の骨とともに葬り、松の木を植え、目印としています。今も牡鹿の里を鹿松、牡鹿の里を鹿妻と呼ばれる、この故事によるものだそうです。一説には、牡鹿半島牡鹿郡の名はこれから生まれたとも伝えられ

株式会社 チュチュアンナ  
代表取締役社長

上田 利昭

tutu anna™

MiYOSHi

ミヨシ石鹼株式会社  
〒130-0021  
東京都墨田区練3-8-12  
TEL 03-3634-1341



竹中工務店

www.takenaka.co.jp



「ヒューマニティ・ファースト」  
日本アハマディア・ムスリム協会



## 傾聴ボランティア

吉川 潤

「佐藤芳郎さん」

3月11日

当

日

佐

藤

芳

郎

さ

ん

」

は女川へ仕事に出ており、妻征子さん(65歳)は石巻市浜松町の家にいました。天井の20cmくらい上まで津波は迫りました。「ここが水の高さです」と指さした2階への階段の一番上から一つ下踏み面まで、黒い津波の跡が残っていました。

芳郎さんは、金華山の観光船で機関長として運航業務に従事していました。海の様子を残した写真を見せながら、

「天童よしみの珍島物語の歌詞に、海が割れるのよつて一説あつちやあれと同じですよ。」と傾聴班の私たちを居間に招き入れ語ります。ちょうど日本経済新聞の川上寿敏記者も代表といつしょでした。

「午後2時35分頃、船の底から大型バイクがうなつているような地鳴りが20秒ほどしました。女川の山並みを見渡すと、山が崩れる勢いで揺れていきました。直感で津波が来るとわかりました。すぐに20トンの旅客船(60人乗り)に船長と2人で沖へ向かいました。水深が浅くなると津波は高くなるため、沖へ避難したのです。2日間沖合にいました。船内にあつた少量の水と、乗客用に販売するお菓子を分け合って過ごしました。津波警報が解除になった13日、女川観光桟橋に船を接岸したところ、会社の事務所、隣接する旅客待合所は津波に流され、跡形も無くなっています。車も流されており、歩いて渡波の家に向かいました。途中の惨状に、「家族や親戚もみんな死んでしまったや」とよぎりました。1階がぜんぶ津波に持つて行かれた家に向かって、家族の名前



現在の石巻市浜松町

を呼んでも、返事はありませんでした。渡波小学校校舎の3階の教室で、足の踏み場のないごつたがえした中に妻たちを見つけ、再会を果たしました。<sup>1</sup>

妻は、息子(35歳)と孫(当時小学校5年)

といつしょに難を逃れました。勤め先からちょうど早番で帰宅していた息子(35歳)が、5年生だった孫を小学校まで車で迎えに行き、自宅に帰ってくるのを待ち受けていたちょうどその時、征子さんは山のような津波が前の家の横から見えました。後部座席に飛び乗るやいなや、車は物置の上を越え、流れてきたがれきといつしょに家の裏の空き地をぐるぐると渦を巻いて回りました。助手席に乗つていた孫は「死ぬんではねえか、死ぬんではねえか!」と叫びました。征子さんは恐怖のあまり外を見ず、金縛りの状態でした。「洗濯機の中で振り回されているようで、このまま止まらないのではないかと恐ろしかったちや」。車は鉄工所のがれきに突っ込むようにしてやつと止まりました。息子が車の窓を壊し、やつとの思いで3人共、脱出しました。雪が降っていました。腰まで水に浸かりながら、震える3人を家の2階に迎え入れてくれる近所の親切によつて救われました。2階でお菓子などを分けてもらつて一晩過ごしました。翌朝には、着の身着のまま渡波小学校の3階へ避難しました。町の光景は、さながら戦争当時の写真のような光景でした。

征子さんは、不整脈、変形性膝関節症などの持病もありました。送迎で息子と孫が戻つて来なかつたら、隣人の助け合いがなかつたらひとりで死んでいたのです。間一髪でした。「学校はなんど生徒たちを帰したんだかね、小学校は避難所なのに……。津波のことは(みんな)頭にないんだよね」と不思議な巡り合わせを話されます。

1 参考資料「船員新聞」(第2656号 震と津波はワンセット・潮ブランニング機関長 佐藤芳郎)。

に残ったことが不思議で、悲しい」と父親(60歳)はぱつりと言います。ほとんどの家が全壊になり、浜松町でも40名以上が亡くなりました。みんな知り合いで、「心に穴が空いたようちや」と生き残った者の気持ちです。

傾聴ボランティアを

続けて、痛いほどわかることがあります。

家族、親戚、友人など大切な人を突然亡くした悲しみはいつまでも癒えません。体験した者にしかその哀しみ、苦しみ、くやしさはわかりません。建物や道路などの復興が進んだとしても、元気を見てても、しあわせを素直に喜べない複雑さがあります。時間は止まつたままなのであります。だれも元通りにできません。私たちは何もできませんが、共に苦しみ、泣く苦縁のため毎月、訪問を続けます。

## (社)神戸国際支縁機構

### ・ボランティアや移住者募集中

毎月、被災地へ赴きます。農林漁、および在宅被災者戸別訪問にご協力ください。医療関係者歓迎します。詳細はホームページ。

### ・被災地への支援物資もお願いします。

会員(年度4月~翌3月)の皆さまには、季刊誌などをお送りします。

事務局長 本田 寿久



代表取締役 三木 晴雄

〒130-0021 東京都墨田区錦3-8-12  
tel 03 3634 1345 fax 03 3635 4124  
URL:www.tamanohada.co.jp

法律相談初回無料。  
お気軽にご相談下さい。

## 宮永法律事務所

みや なが たか し  
宮永堯史 弁護士 松田康生

〒650-0016 神戸市中央区橋通1-2-14

☎ 0120-997-181  
TEL 078-351-1325 FAX 078-351-1270

特定非営利活動法人

み も ざ

TEL 078-262-0460

医療・保健介護・

福祉・教育に関する事業

共生社会の実現

不動産 売買・賃貸・管理・店舗は

本 田 商 会

〒662-0051 西宮市羽衣町5-23

電 話 : 0798-38-7560

F A X : 0798-38-7561

お気軽にご相談ください。

ヤマザキ

世界のパン  
ヤマザキ

夢に近づく  
夢を産み出す…

KINSAN

KS 近畿産業信用組合

総合センター

0120-111-019

